

浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて 〔概要版〕



宮津まちづくり会議

平成27年11月

浜町エリア及びその周辺エリアの位置づけ

本市への来訪者に宮津の多様な魅力を伝えるための拠点が必要と考え、中心市街地の中心部に位置し、交通の要衝であるとともに、大型商業施設や公共施設が集中している「**浜町エリア**」を戦略的に活用することが求められます。

また、近年の観光は、まちの魅力そのものを楽しむ傾向にあるため、浜町エリアだけでなく、「**浜町周辺エリア**」との連携も考慮する必要があります。

このため、まちづくり会議においては、**今回の検討地域を「浜町及びその周辺エリア」**(以下「**宮津中心部**」)と定めるとともに、来訪者のみならず、市民にも貢献するための活性化方策を検討することとしました。

宮津中心部における解決すべき課題

本市においては、急速な少子高齢化の進展に伴い、地域経済が縮小傾向にあるとともに、人口流出による担い手不足など、地域の活力が低下する深刻な状況となっていると考えられます。

特に宮津中心部においては、空き家・空き店舗の増加による賑わいの喪失、まちの魅力低下、商店などの後継者不足をはじめ、様々な課題を抱えており、課題解決への方向性を早急に定め、経済団体、行政、地域住民などが一体となった取り組みを進める中、丹後をはじめ各地からの集客、交流人口の増加を図り、賑わいを創出していくことが重要な状況にあります。

課題解決に向けた方向性及び各エリアの理想像

『地域資源を活用し、人が集い行き交う、賑わいのある場所づくり』

■キーワード①＜暮らし＞

北前船が行き交う城下町・宮津の栄華を現代に伝える豊かな町並み、また、受け継がれる貴重な伝統、コミュニティを活かし、暮らす人々、集う人々に魅力的な場所にする

■キーワード②＜集い＞

海路と陸路の結節点という地理的条件を活かし、丹後地域の中核都市としての機能を再構築し、さらには日本海側観光の要衝としての機能をもつ場所にする

■キーワード③＜商い＞

山海の食材を活かした商業の活性化を図り、地域経済の循環を生み出す場所とする

浜町エリアの理想像

家族みんなが1日ゆっくり楽しみ
五感で宮津を味わうことができるエリア

既存商業地エリア(本町・中町・新浜など)の理想像
路地裏に驚きと幸せが散りばめられた
玉手箱エリア

宮津駅前エリアの理想像

おもてなしの心溢れる情報発信・旧宮津城内
に広がる駅前エリア

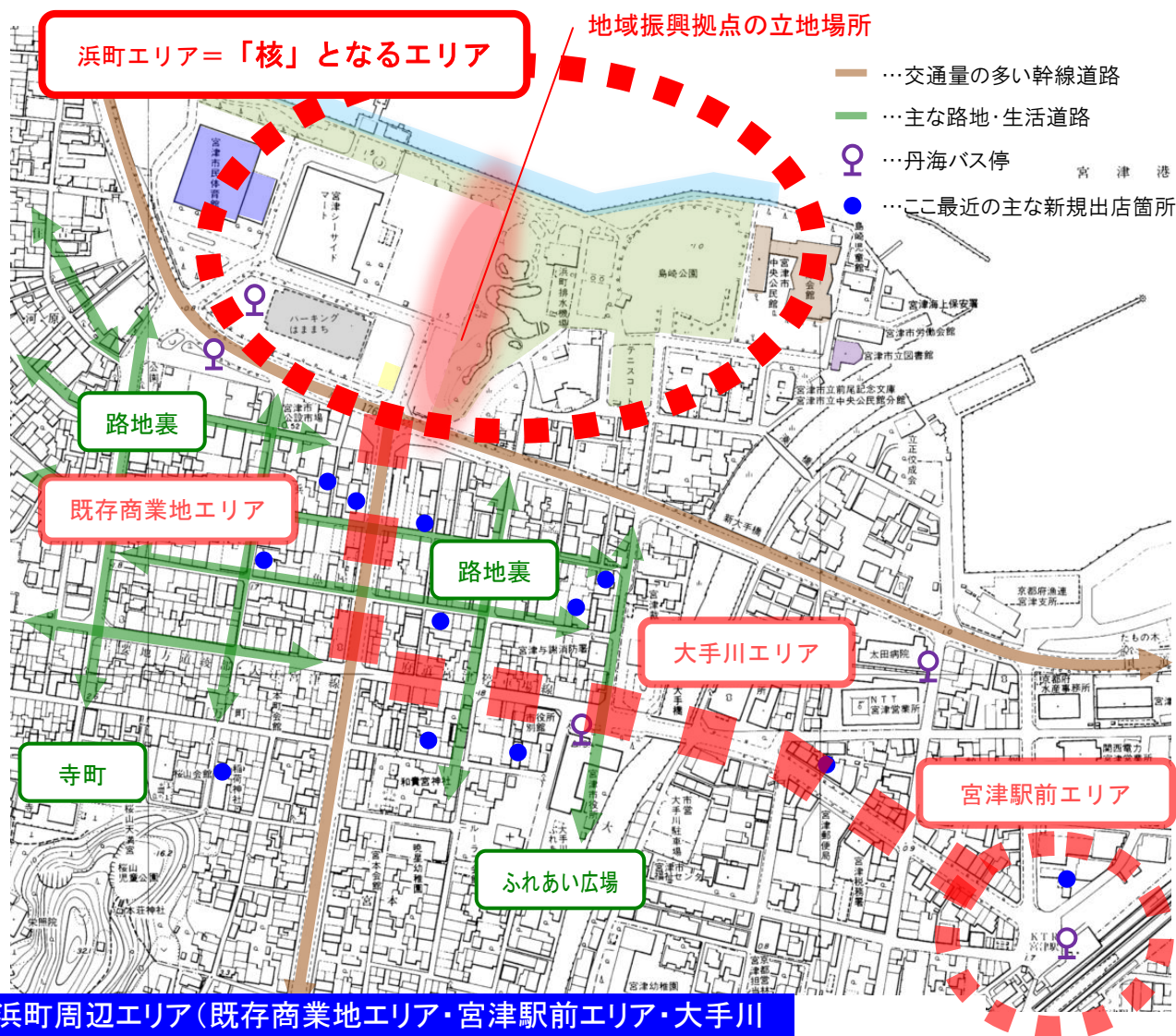
大手川エリアの理想像

大手川が市街地と海と結ぶ
憩いと交流エリア

賑わいづくりに向けた具体の取組事業(案)の検討

浜町エリア(核となるエリア)を活性化させる基本的な視点

視点1	■「常に人が集う空間の創出」を図り、「商いによりまち全体の経済効果を及ぼす」ことに繋げていく。
視点2	■各施設などの連携や集積により「テーマ性やストーリー性のある複合的なエリア」にしていき、エリア全体で市内外に宮津の魅力を発信していく。



浜町周辺エリア(既存商業地エリア・宮津駅前エリア・大手川エリア)を活性化させる基本的な視点

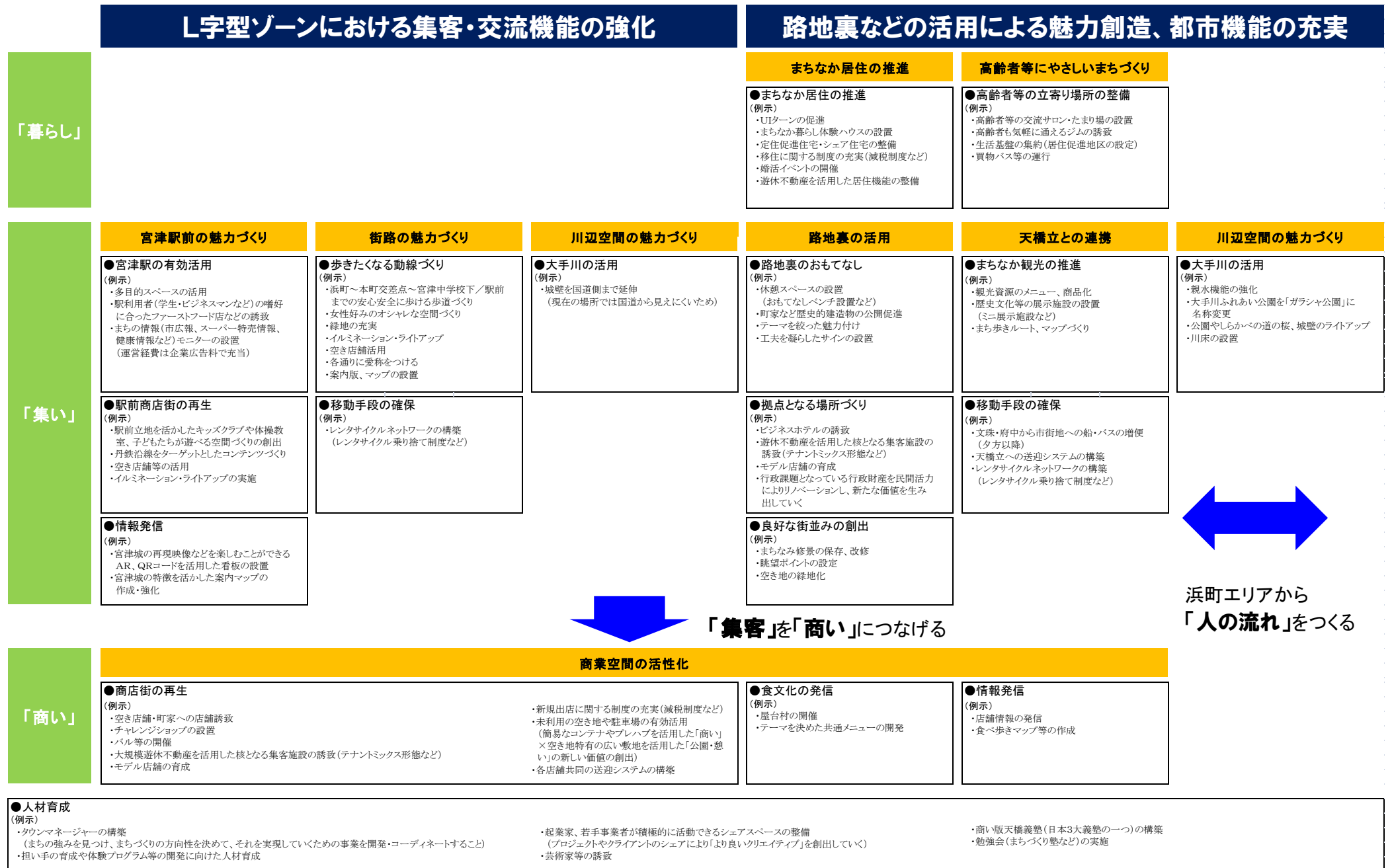
視点1 L字型部分 (動線)	■現状では人の歩く動線でないため、歩きたくなる・歩きやすい空間整備をしていく。 ■休憩スペースや案内板を置くなどの工夫をし、路地などに引き込むための仕掛けをしていく。
視点2 路地・寺町など (目的地)	■「人」・「商い」を生み出し、小規模からでもチャレンジできる仕掛けづくりをしていく。 ■路地など、目的地は、ターゲットを絞ってしっかり魅力付けをしていく。 ■歯抜け状態(遊休)の不動態などの活用を図っていく。

< 取組み事業(案) > ※P3 の視点に基づいて、ワーキングなどにより検討した結果、以下のとおり取組み事業(案)を取りまとめたもの。

浜町エリアにおける集客・交流機能の強化

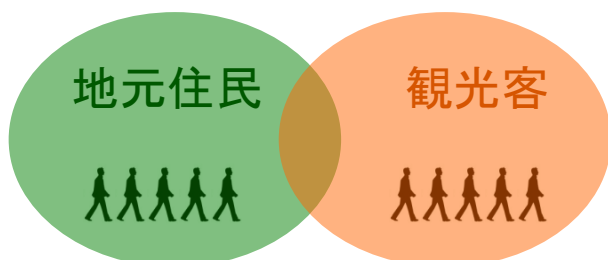


＜取組み事業(案)＞ ※P3 の視点に基づいて、ワーキングなどにより検討した結果、以下のとおり取組み事業(案)を取りまとめたもの。



地域振興拠点づくりに向けたポイント

1) 地域振興拠点のターゲット層



- 第1のターゲット
20km 圏内の市民・近隣住民(約7万人)
- 第2のターゲット
20km～50km圏内・南丹地域・京都市内(約45万人+京都市)
- 第3のターゲット
観光客(約270万人)

2) 地域振興拠点の特徴及び規模、立地場所

コンセプト	海の京都の台所
具体的な機能	■ 宮津産を中心に丹後エリアの旬の食材を提供 ■ 産地直送の「農産物」に加えて、「海の幸(活魚、鮮魚など)」を総合プロデュース(仕入、販売、料理、加工) ■ 「買う」と「食べる」「体験する」が一体となった旬の魅力の相乗効果 ■ 食材の新たな活用を発見し、売れる製品としてリメイク
規模	■ 「売り場面積:800～1,000㎡程度」の施設であれば一定の吸引力があり、経営的にも安定することが期待できる ■ 一定の専用駐車場も必要
立地場所	「浜町交差点付近から海側のエリア」が立地場所として相応しい

3) 経営マネージャーの確保について

具体化には、実現可能な形で計画策定や協議・調整を行う必要があり、そのためには強いリーダーシップと経営的感覚を持った「**経営マネージャー**」の存在が**必要不可欠**です。

平成27年に一旦中断している「経営マネージャー」については、条件が整った段階で再募集を行う必要があるとともに、経営マネージャーの受入れに向けた**準備・研究(組織構成、基本計画など)**を進めていくことが**必要**です。

4) 今後の検討について

以下の点について引き続き検討していきます。

- 担い手となる事業者の確保
- 担い手との協議を踏まえた立地場所や規模などの選定
- 周辺事業者(特に既存大型商業施設)との連携や協力を求めていくこと

なお、特に以下の点については、宮津市において調査・検討をお願いしたいと考えます。

- 地域振興拠点の整備に向けて、公共用地(再開発用地、公園)での立地における実現可能性の調査・検討
- 公共施設(公園、図書館など)の充実・改善に向けた方針の整理

5) 当面の賑わいづくりについて

観光交流センターのオープンや道の駅登録などを踏まえ、早期に賑わいを創出していくことが望まれます。

平成27年度においては、実証実験を兼ねた賑わいづくりイベントを実施してきましたが、今後は、平日開催や小規模でも店舗の常設化を図るなど、「**より経営視点**」を持った**取組みを実施していくこと**が、賑わいを創出する上でも、また、地域振興拠点の実現に繋げていくためにも必要と考えます。

なお、実施にあたっては、**取組みやすい再開発用地などを活用するとともに、徐々に海側へ広がりを持たせるなど、スピード感を持って進めることが必要**と考えます。

これらの取組みを進めるために

このまちを活性化したい、より良い暮らしをしたいという熱い思いのある「住民や事業者が主人公」になるとともに、「よそ者、バカ者、若者、女性」も積極的に取り込み、地域の一人ひとりが「**まちを好きになり、発信し、行動に移していく**」、**まちぐるみで「まちを運営・経営していく**」という考え方で、身の丈にあった持続可能なまちづくりを進めていくことが必要となってきています。

また、宮津市をはじめとした公共団体は、これらの取組みを積極的に支援し、公民連携の下で取組みを進めていく必要があります。



これらを進めていくためには、

- ①まちぐるみで取組みを実行していくための仕組み
 - ②まち全体を同じビジョンに向かわせるための仕組み
- が必要です。

